



### 『ScanSnap』で患者情報を共有し、在宅医療を効率化

東京都世田谷区の「桜新町アーバンクリニック」は最先端の在宅医療を実践する医院。院長の遠矢純一郎さんはデジタル機器を活用して効率のよい在宅医療システムを構築した、この分野のトップランナーだ。そのシステムの中で『ScanSnap』が「要」のような役割を果たしているという。『ScanSnap』の活躍ぶりを詳しく伺った。



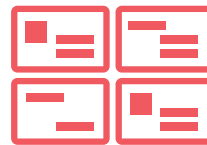
桜新町アーバンクリニック院長 遠矢純一郎様

#### 遠矢さんのScanSnap活用法

保険証や紹介状をデータ化してクラウド上で共有



名刺のデータ化で介護との連携をスムーズに



記録などの大量書類をデータ化・共有



#### 保険証や紹介状をデータ化してクラウド上で共有

### ドクターほか医療スタッフが最重要情報を共有し、24時間体制を実現

「桜新町アーバンクリニック」は外来診療と並行して、24時間体制の在宅医療を行う医院だ。往診エリアは世田谷区のほぼ南半分と広い。現在は300人を超える在宅の患者を、院長の遠矢純一郎さんを含むドクター4人が、それぞれ看護師とドライバー1人ずつとチームを組んで巡回している。各チームの訪問軒数は一日に12~13軒。

「通常の往診は朝から夕方までですが、急な発熱や怪我など、いろいろなことが昼夜を問わずに起こります。ですから夜間や休日にも臨時の出動があります。連絡を受けるドクターと看護師を決めておき、必要と判断したら当直のドクターに動いてもらう体制です」

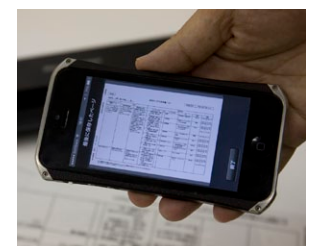
患者にとっては入院よりも元気に過ごせる在宅医療だが、ドクターや看護師が常に患者の近くにいるわけではない。したがって医療スタッフ全員が、いつ、どの患者にも対応できるようにしておく必要がある。そこで遠矢さんが導入したのが「ScanSnap iX100」と、医療スタッフ各自が持つiPhoneとiPad、そしてプライベートクラウドだ。それらの活用は、在宅の患者を引き受ける時点で始まる。

「まず相談員が在宅医療を希望する患者さん宅に『iX100』を携行し、健康保険証や介護保険証と、入院していた病院の紹介状（診療情報提供書）をスキャンしてデータで持ち帰ります」

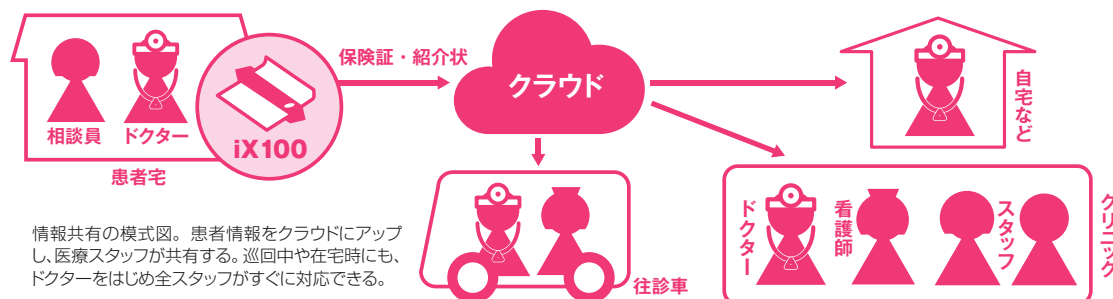
引き受けが決まったらデータをプライベートクラウドの患者別フォルダに

アップし、医療スタッフ全員が手元のiPhoneやiPadで確認できるようにする。特に重要なのは、基本情報や検査結果が記され、時には10枚以上に及ぶ紹介状だ。何かあれば必ず遡って確認するそれらを、紙で共有することは難しい。だがスキャンデータをクラウドに置いておけば、対応するドクターや看護師が誰でも、スキャンデータを確認して適切な医療処置を施すことができる。

「私たちが開業医の立場で24時間体制の在宅医療を実践できているのも、このシステムがあってこそのことです」



上:『iX100』ならプラスチックカードの保険証でもスキャン可能。右上:紹介状などの書類も現場で手早くスキャン。以前は書類を撮影していたが、暗くてきれいに撮れないといった問題もあった。それが『iX100』の導入で解決した。右:ダイレクト接続機能により、Wi-Fi環境なしでも使用可能。すぐにクラウドにアップできる。



情報共有の模式図。患者情報をクラウドにアップし、医療スタッフが共有する。巡回中や在宅時にも、ドクターをはじめ全スタッフがすぐに対応できる。

最重要書類の紹介状（診療情報提供書）。検査結果なども含まれ、何枚にも及び。スキャン後も原本は保管する。



## 名刺のデータ化で 介護との連携をスムーズに

### 介護⇔医療の情報共有を強化

「在宅医療で大切なのは患者さんの生活です。私たちが担当できるのは医療の側面だけです。介護の計画を立てるケアマネージャー、訪問介護士といった方々との連携が欠かせません」

そこで、ケアマネージャーが招集する患者別の担当者会議の席上で交換した名刺を「iX100」でスキャンし、クラウドの名刺管理アプリに登録してiPhoneでいつでも見られるようにしている。連絡に手間取らないため、ケアマネージャーから介護計画書を受け取ったり、逆に医療側が介護側に必要な医療情報を提供したり（ともにインターネットFAXを活用）といったこともスムーズになった。この連携が患者の生活を支えているのだ。

※クリニック、介護事業者双方が個人情報の第三者提供の同意を患者さんから得ています。



A4用紙はもちろん、名刺のような小さな紙まで簡単かつスピーディに読み取れる。

## 記録などの大量書類をデータ化・共有

### 在宅医療のさらなる効率化へ

オフィスでは「iX500」も活躍している。医療業務記録などの大量書類をデータ化し、共有するのだ。これもまた効率化の一環だ。

「世界に類を見ない高齢化社会を迎えた日本では、在宅医療の整備が緊急の課題です。また在宅の患者さんは、入院に比べてはるかに元気です。『ScanSnap』などによる効率化を進めて、在宅医療を定着させていきたいですね」



桜新町アーバンクリニック在宅医療部／ナースケアステーション（左）のデスクで「iX500」で書類をスキャンする。その速さに思わずにっこり。

## +α 移動時間に所見を口述。カルテ作成も大幅に効率化

在宅医療は移動時間がある分、外来診療に比べて効率が落ちる。だが、さすが遠矢さん。移動時間を逆手にとった効率化も実践している。車中でのカルテの口述だ。「移動中に所見をボイスレコーダーに吹き込み、戻ったら音声データをクラウドにアップします。それを外部の潜在看護師（休職中の看護師）が受け取ってテキストに書き起こし、ドクターが確認後に電子カルテに貼りつけます」。この電子カルテも医療スタッフ全員で共有する。潜在看護師の力を借りるアイデアも含め、合理的なシステムには学ぶところが非常に多い。



ボイスレコーダーを携行することで移動時間を有効に使える。

### 桜新町アーバンクリニック 遠矢純一郎様

総合内科専門医、院長。鹿児島大学医学部卒業。2000年に用賀アーバンクリニック副院長に着任し、世田谷区の地域医療に深く関わる。2009年の桜新町アーバンクリニック開設以来、同クリニック院長として在宅医療の充実と推進に力を尽くしている。

Web : <http://www.sakura-urban.jp/>  
Facebook : <https://www.facebook.com/JunichiroToya>  
Twitter : <https://twitter.com/jtoya>

\* iPad、iPhone は、Apple Inc. の商標です。

【著作権について】 著作権の対象となっている新聞、雑誌、書籍等の著作物は、個人的または家庭内、その他これらに準ずる限られた範囲内で使用することを目的とする場合など、著作権法で定められた例外を除き、権利者に無断でスキャンすることは法律で禁じられています。なお業務利用では、著作権者の許諾が必要となることがありますので、著作権法、およびご利用になる企業や団体で定める利用規則等に従って利用して頂くようお願いいたします。本事例におけるスキャンは、私的使用の範囲か、または、著作権法上問題のない資料等が対象とされています。

販売店

【お問い合わせ先】株式会社 PFU イメージング サービス & サポートセンター  
TEL : 050-3786-0811  
<受付時間> 月～金曜日 10時～12時、13時～17時（当社休業日除く）  
E-mail : [scanners@ml.ricoh.com](mailto:scanners@ml.ricoh.com)

ScanSnap に関する詳細はこちら  
<https://www.pfu.ricoh.com/scansnap/>